

研究推進校事業報告書

＜取組と成果のポイント＞

(1) 教員の道徳授業の技術向上

講師を招聘し、年4回にわたって計画的に読み物資料の分析の仕方、発問構成、話し合いの工夫について校内研修を行った。教材研究の方法を教えていただき、職員は毎時間の授業について学年で話し合いを抵抗なく授業ができるようになったことは、大きな成果である。

(2) 道徳の授業についての評価

評価につなげるために、授業の最後に「振り返りカード」を書かせ、継続して保管した。また、評価について職員の意見を出し合い、「道徳振り返りシート」や「授業評価シート」を作成した。評価についての考えが深まった。

(3) 学校教育全体を通した道徳教育の推進

各教科や領域、特別活動等の中から、これまでも本校の活動としていたものの中で特に道徳的心情を育むのに有効であると考えたものをより充実させ、学校教育全体を通した道徳教育の充実を図った。

1 研究推進校の概要

学 校 名	所 在 地	電 話 番 号	児童数	備 考
春日井市立坂下小学校	春日井市坂下町5丁目324番地	0568(88)0001	480 人	

2 研究課題

- (1) 道徳の時間の指導の工夫
- (2) 道徳の時間の評価の在り方を考える
- (3) 学校教育全体を通した道徳教育の推進

3 研究主題とその設定理由

「子どもをとらえ、よさをのばす『道徳科』の授業と評価の在り方」
—道徳的価値の自覚を深める授業づくりを通して—

本校は、児童数480名、教職員33名の中規模校である。学区には、昔からある古い地域と、新しい地域とが混ざっている。学区全体は落ち着いており、地域の方による登下校見守り、読書月間におけるボランティアによる読み聞かせ、生活科や総合的な学習における地域ボランティアによる講師など、学校教育に協力的な地域の方々が多い。また、地域の行事として、「3世代交流グラウンドゴルフ」、学区6つの地域対抗で行われる「ロクリンピック」などが毎年行われ、地域の方々、お年寄り子どもたちが触れ合う機会となっており、子どもたちも楽しみにしている。その一方、「子どもたちの挨拶の声が小さい」「進んで挨拶ができない」と地域の方より指摘されることも多い。

校内では、教師の話をよく聞き、目標に向かって努力する子が多い。しかし、自発的に挨拶や仕事をすることが苦手な子もいる。また、周りの人の気持ちを考えずに行動したことで、登下校や放課に揉め事になることもしばしばある。このような児童が、道徳的価値の自覚を深め、よいと思うことを進んで行ったり、周囲の人に思いやりや感謝の気持ちをもって接したりすることができるようになってほしいと考えた。

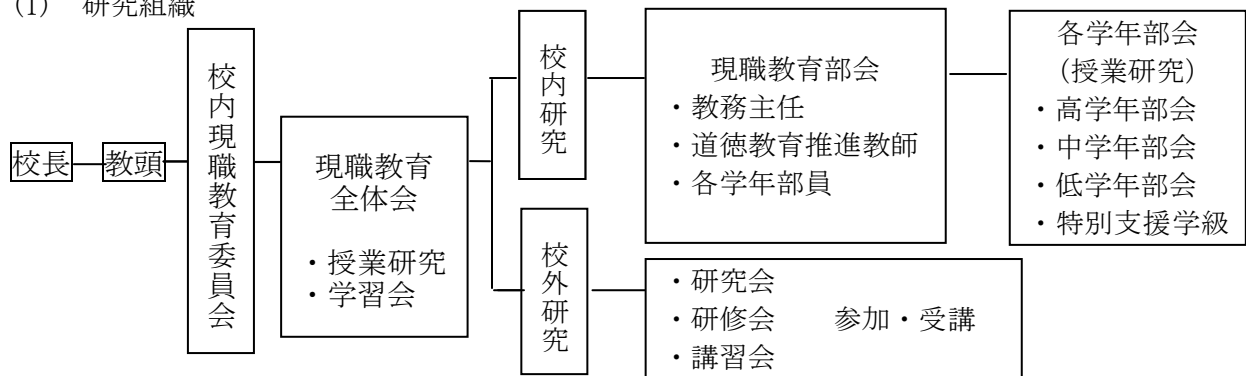
また、経験年数が少ない教師が増え、道徳の授業において子どものよさを引き出すことができずに悩む教師も増えている。平成30年度に教科化される道徳の時間の指導について研究することにより、自信をもって授業に臨むことができるよう、外部講師を招き、教材研究の在り方や授業法、評

価値の在り方等を学びたい。研究を進めるなかで、これまでより一層子どもたちのよさを認めることができるようになり、さらに本校教育目標を達成できるよう本テーマを設定した。

4 研究の概要及び特色

研究テーマを「子どもをとらえ、よさをのばす『道徳科』の授業と評価の在り方」とし、その中でも、特に道徳の時間の指導を中心に研究を進める。外部講師を招聘し、道徳の時間における教材研究や指導方法、評価の在り方について校内研修を行い、道徳の授業力の向上に力を注ぐ。また、各教科や領域、特別活動の指導を充実させ、学校教育全体を通した道徳教育の推進を図る。

(1) 研究組織



(2) 研究構想

ア 道徳の時間の指導の工夫

- ① 講師を招いた校内研修
- ② 道徳的価値に迫る授業づくり

イ 道徳の時間の評価の在り方を考える

- ① 「振り返りカード」への記入と保管
- ② 「道徳振り返りシート」の作成
- ③ 「授業評価シート」の作成

ウ 学校教育全体を通した道徳教育の推進

(3) 研究課題にかかわる取組

ア 道徳の時間の指導の工夫

(ア) 講師を招いた校内研修

日本道徳教育学会 近畿支部 副支部長 川崎雅也先生を招き、学習会を行った。

川崎先生の示範授業を参観し、講義を受けた。道徳の授業は、「いかに生きるか」を考える時間であることや、生き方は教師と雖も児童に教えることができないので、児童とともに考えていくことが大切であるというご指導をいただいた。よりよい授業の参観をすることで、学校全体でめざす授業像をもつことができた。

(イ) 道徳的価値に迫る授業づくり

川崎先生の示範授業参観で共有した授業の流れをもとに、校内研究授業を行い、授業の流れの中で大切にしたいことを再確認した。



<授業の流れの確認>

段階	確認事項	指導例
導入	- できるだけ短い時間で行う 「資料への導入」か「価値への導入」 * 「価値への導入」をした場合には、授業の終わりに価値が高まったか児童と共に確認をする。	

めに、道徳の時間の最後に「振り返りカード」を書いている。カードには、授業で考えたこと、分かったこと、友達の考えから「なるほど」と思ったことなどを書いた。児童の実態を見ながら、学年ごとにカードの形式を工夫した。また、振り返りカードを書く際に、書く視点を意識させている学年もある。

これらの実践によって、始めは資料の感想だけを書いていた児童も、道徳的価値の大切さや道徳的実践意欲について考えてカードに書くことができるようになってきた。

カードは、それぞれの個人ファイルに継続的に保管している。

(イ)「道徳振り返りシート」の作成

道徳科の評価が、児童が自らの成長を実感できるもの、また児童の成長を励ますものになるように、「道徳振り返りシート（資料3）」の作成を行った。学期に1回、児童とともにその学期の学習内容を振り返りながら、心の成長について考える機会を設け、シートに記入させる。その後、教師は、これまでの授業の様子を思い出したり、振り返りシートを読んだりして個々のシートにメッセージを書いた。

(ウ)「授業評価シート」の作成

教師自らの指導を評価し、指導の改善を行い、児童の学習意欲の向上に生かすために、「授業評価シート（資料4）」を作成した。また、合わせて授業の板書の写真からも授業の考察（資料5）を行った。

資料3：「道徳振り返りシート」

道徳 振り返りシート 名前 _____ 11月11日

1. 5年生で学習した道徳で、心に残っている資料は何ですか。そして、その資料から考えたことは何ですか。

【心に残っている資料の題名】 母からの手紙 【考えたこと】 二十五メートルのかべ

【心に残っている資料の題名】 二十五メートルのかべ 【考えたこと】 どれくらいくたくたでもあきらめない気持ちがあったこと。

2. 道徳の時間に、心が成長しましたか。1つ○をつけてください。

成長したと思う ○ 成長しなかったと思う ○ 成長してないと思う ○

【どうしてそう思ったのか、理由も書いてみよう】

道徳の時間では、自分が思っていることや気持ちもみんなに言ったりと自分で考えるよりも気持ちがひろがってそれを考えることもいいが成長していくような気持ちになるし考えるひろがから。

3. 生活の中で、道徳の時間に学習したことを考えたり、思い出したりしたことはありますか。

【どんな時に考えたり、思い出したりしたのか】

あきらめなくなる気持ちかむたときに一ペルのねかきを思い出します。一ペルさんみたいに自分もあきらめずに何かをしたいと思います。つづくとあきらめずにがんばりたいという気持ちから強くは見えなくてもあきらめなくなりました。

4. これから、よりよく生きるために、どんな心を大切にしたいですか。

やさしい心を大切にしたい。少しおこった時にムネを思いやるけれど、よりよく生きるためにはやさしさが必要だ。やさしい心をもっている人を目撃したり、まわりの人がやさしく人に声をかけたことで、みんながやさしい心をもっているのはまわりをよく見て行動が大事だ。思うに、これにこそやさしく生きてほしい。

先生より

友だちの発表を聞いて、「なるほど」と考えられる長谷川さんは素晴らしい！いつも道徳の時間を楽しみにしていますね。「やさしい心」をずっと大切にしてください。

5年1組 授業評価シート

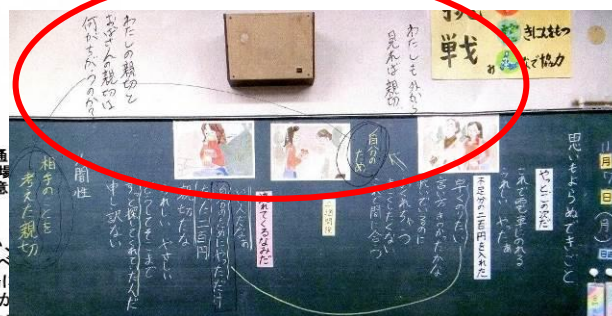
時	価値を理解しているか	自己を見つめて自己の生き方を	実践意欲
1	○	○	○
2	○	○	○
3	○	○	○
4	○	○	○
5	○	○	○
6	○	○	○
7	○	○	○
8	○	○	○
9	○	○	○
10	○	○	○
11	○	○	○
12	○	○	○
13	○	○	○
14	○	○	○
15	○	○	○
16	○	○	○
17	○	○	○
18	○	○	○
19	○	○	○
20	○	○	○

<資料名>
思いもよらぬできごと
みんなのどうとく5年(学研)

<ねらい>
電車の中で泣いている「わたし」の気持ちを誰に対しても思いやりの心をも、相手の立場立って温かく接していこうとする道徳的実践態度を育てる。

<授業についての考察>
本時は授業参観ということもあって、子どもたちから出される意見が普段と比べかたかったように感じた。「相手の立場」立った思いやり」という主題を押さえたが、最終的には「どんな親切ならよかったのか」と誘導するような形になってしまった。主発問で、「なさない」、「自分のためにやったことなのに」といった自分を振り返る発言や、「いい人だな」、「やさしいな」というおばさんに関する発言は多く出たが、そこから自分はこうしていきたいという実践意欲につな

資料4：「授業評価シート」



資料5：板書からも授業を考察

ウ 学校教育全体を通した道徳教育の推進

各教科や領域、特別活動等の中から、これまでも本校の活動としていたものの中で特に道徳的心情を育むのに有効であると考えたものをより充実させることにより、学校教育全体を通した道徳教育の充実を図った。

(ア) 思いやりの気持ちを育てる



なかよし（縦割り）班活動

これまでも行っていた「なかよし（縦割り）班活動」の回数を増やし、高学年の低学年に対する思いやりの気持ちを育てたいと考えた。5月の「なかよし班活動集会」に始まり、「なかよしクリーンタイム」（6・11月）、高学年が考えた遊びを楽しむ「なかよしウィーク」（7月6～8日、1月30日～2月1日）、班と一緒に弁当を食べる「なかよし弁当」（9月）、お世話になった6年生への感謝を伝える「なかよし班活動」（2月）と、7回の活動を計画した。始めはお世話の仕方が分からず戸惑っていた6

年生だったが、回を重ねるごとに声掛けが上手になった。

(イ) 郷土愛を育てる

6年生の総合的な学習の時間では、「坂下のお宝を探そう」と題し、地域の宝とも言える史跡を巡ったり、地域の方に話を聞いて触れ合ったりしている。今年度もたくさんの方にお話を聞き、地域のよさを学ぶことができた。取材活動の後には、お世話になった方を招待して発表会を開いた。



坂下のお宝を探そう

(ウ) 自然愛護の気持ちを育てる



自然観察林でのシイタケ栽培

2年生の生活科の一環として、本校敷地東側にある自然観察林でシイタケ栽培を行っている。地域に住む「みどりのまちづくりグループ」の方に教えていただき、原木に菌種を打ち込んだり、菌糸をほだ木に蔓延させる本伏せの作業を行ったりした。子どもたちは、自分たちが作業したシイタケが大きくなることを楽しみに、原木を見に行っている。

(エ) 感謝の気持ちを育てる

3～6年生の各学級がお店を出し全校で楽しむ「坂下まつり」では、毎年地域の「高年会」の方にグラウンドゴルフを教わっている。児童会を中心に感謝の気持ちを伝える感謝状とペンダントを贈った。日頃いろいろな場面で見守ってくださっている地域の方に感謝の気持ちを伝えることができた。



児童会からの感謝状贈呈

5 研究の評価

(1) 研究の成果

ア 教員の道徳授業の技術向上

講師の川崎雅也先生に道徳の教材研究の方法を教えていただいたおかげで、職員は毎時間の授業について学年で話し合うようになった。職員室の中で、自然と道徳の授業についての話し合いが始まり、抵抗なく授業ができるようになったことは、大きな成果である。

イ 道徳の授業についての評価

評価について、職員の意見を出し合い、「道徳振り返りシート」や「授業評価シート」を作成できたことは大きな成果である。始めは、評価することに対して尻込みしていた職員も、取組を通して評価への理解が進んだ。

(2) 今後の課題と取組

- ・ 教師は、教材研究や授業について研修を積み、力をつけてきた。その一方、授業の中で、児童の意見に説明を加えてしまったり、予想していなかった意見に動揺したりする姿も見られる。また、授業が教師と児童とのやりとりになりがちである。教師が

児童の考えをじっくりと待つ姿勢や、児童同士が考えをつないでいく授業を目指して、今後も研修を続けていきたい。

- ・ 評価の仕方については、まだ不安がある。今年度の研究をもとにしてさらに、授業の中でどのような児童の姿を見ていけばよいか、また「振り返りシート」の様式などについて検討を重ねていきたい。